



全国の学生から集まった夢を紹介!



タウンワーク **TOWNWORK** Presents

キャンパスライフ・プラスワン

Campus Life+1 通信

～教えて!みんなの夢～ Vol.7

学生の皆さんへの夢募集企画

「Campus Life+1」に

お寄せいただいた夢をご紹介します。

どのような夢を持っているのか?

その夢を持つに至った背景は?

今、どんなことに取り組んでいるの?

全国の学生の皆さんの「夢」に迫ります!

Profile

東北薬科大学 4年
熊谷 茉歩さん
(21歳)

薬学部に所属。将来は研究職に進みたいと考えている。趣味はカフェ巡りで、お気に入りの一眼レフを片手に散策。



子どもたちの理科嫌いを克服する 楽しい授業を仲間たちで行いたい!

私の夢は「理科に苦手意識を持っている中学生に、実験を中心とした授業をすることで、理科の楽しさを知ってもらう」ことです。現在、私は個別指導の塾で講師として、中学生に理科の授業を中心に教えています。生徒たちと接していると、「理科は難しいから嫌い」という残念な声をよく聞きます。私自身が理科の授業が好きだったこともあります。理科ほど私たちの身の回りのことに直結した科目はなく、理科が嫌いなのはもったいないと思っています。例えば、植物は日光を効率よく浴びるために、葉っぱが重ならないように開きます。このように、理科を通じて私たちの身の回りで起こっている何気ない現象の仕組みや、本質を知ることができます。生徒に教える際もただ教えるのではなく、身の回りのことと結び付けて教えてあげると、みんな「面白い」と言ってやる気になってく



▲社員の人々と授業の進め方や生徒のフォローについて相談すること

れます。その他、クイズ形式で問題を出題したり、生徒たちが飽きないように身近な話題と勉強をつなげるように心がけることで、学ぶ

時間が楽しいと感じてもらえるように工夫しています。勉強は誰かに押し付けられても楽しくありません。自発的にやるからこそ楽しいものだと思います。具体的には、フラスコの中に無色無臭の気体を入れて、どんな気体が入っているのかをクイズにしたり、身近なものの中で何がアルカリ性で何が酸性かを実験して教えるなど、子どもたちに楽しく学びを提供できたらと考えています。その際、私たちが所属している薬学部は日々の授業や課題に追われることが多く、なかなか外との交流を持つことができないので、ぜひ、学部のみならず一緒に取り組みたいです。



▲生徒たちとの「距離」が近くなると嬉しさを感じること

夢への足跡

2000年 9歳

暗記する科目より自分で考える理科の授業が好きになる

2005年 14歳

中学2年生のときの理科の先生の授業が、ゲーム形式を取り入れたりすることで理科の授業がさらに好きになる

2009年 18歳

大学から始めた塾講師のアルバイトで、人に教える楽しさ・楽しさを知る

2013年 21歳

子どもたちを理科が好きになって欲しいと Campus Life+1 に応募



▲熊谷さんの将来の夢が語られたエントリーシート

「Campus Life+1通信」の最新情報はこちらからCHECK!

<http://entac.jp/>

インタク

検索